

開発途上国の課題解決で ビジネスチャンスを探る



静岡県



ミャンマーで廃棄物を資源化し循環型社会を築く



廃プラスチックから固形燃料をつくりだすRPF製造機

廃プラを固形燃料に 貧困層を工場雇用

18年4月にはミャンマー最大の都市であるヤンゴンの最終処分場で大規模な火災が発生し、現地の方々の意識が高まっていました。当社はヤンゴンで廃プラスチックから固形燃料を生産し、販売するリサイクル事業を計画しています。JICAの調査では当社が中間処理事業を行うことで廃棄物を減量し、最終処分場の負荷を軽減できること、製鉄、セメント、ボイラー工場、外資系工場などからの再生燃料に対する需要が確認できました。また、ごみ拾いで生計をたてる貧困層を工場で雇用し、固形燃料の配送を現地企業に委託すれば資源化に止まらず地域貢献にもつながります。

調査をきっかけに今回の事業に強い関心を抱いた駐日ミャンマー大使夫妻が、当社のリサイクル工場や農園を視察されました。ゆくゆくは現地でも農園を立ち上げ、ミャンマーの持続可能な社会の実現に貢献できるような事業を進めていきます。

深刻なごみ問題 廃棄物が野積み状態

当社は産業廃棄物を分別し、減量、資源化を行う中間処理事業者です。廃棄物から肥料や土壌改良剤など農業分野向けの資材を生産し、グループの農業法人では廃プラスチックを主原料とした固形燃料でハウス栽培を行うなど地域に根付いた循環型事業を展開しています。

国内での廃棄物排出量は減少傾向にあり、廃棄物事業の成長は見込めません。一方、途上国は深刻なごみ問題を抱え、近年では海洋プラスチックによる環境汚染が相次いで報告されています。

途上国での事業展開を見据え、2016年にJICA主催の産業廃棄物分野の海外視察プログラムに参加しました。訪れたミャンマーでは生活水準の向上や人口増に伴いごみが急増し、処分場では分別されない廃棄物が野積みされていました。廃棄物処理を管轄する政府関係機関を訪問し、ビジネスチャンスを感じました。



JICA事業で目指す
SDGs GOALS



MSK GROUP
株式会社エムエスケイ

静岡県浜松市西区和光町505-1

代表取締役会長 **橋本 茂樹**さん

お問い合わせ先

JICA(ジャイカ)中部
企業連携課

☎052-533-1387 (直通)

✉cbictps@jica.go.jp